

・休業4日以上

20024I 補佐員(女性:58歳);退勤時に、屋外の石段でつまずき転落、左手の薬指と小指の付け根を骨折した。
(休業6日)

・不休業事故・災害

20019F 技術・教室系職員(男性:53歳);施設敷地内の山林調査の翌朝、脇の下をダニに噛まれていることに気がつき、病院にて取り除いた。

20021F 事務・図書系職員(女性:54歳);両手に荷物を持って階段を移動中、他者を避けようとしてバランスを崩し転倒。左足甲を捻挫した。

20027F 事務・図書系職員(女性:50歳);事務室で執務中に気分が悪くなり、救急搬送された。

20029F 特任教員(男性:32歳);液体窒素容器の蓋が凍り付いて外れなかったため、蓋を軽くつついたところ不意に蓋が外れ液体窒素が噴出した。被災者は頭から被って頭部及び背中に凍傷を負った。/液体窒素容器の回収場所が雨がかかる場所であった。

20030F 学部学生4年(男性:21歳);三方コックの先からシリンジを刺した状態でコックを回そうとした。針先がコックの穴に引っかかっていたにもかかわらず無理な力を加えたためガラスが破損し、右手親指に切創を負った。

20032F D3 院生(男性:31歳);興奮したマウスの保定が不十分で、指を噛まれた。

・通勤災害

20020J 事務・図書系職員(女性:47歳);駅階段の登りで濡れた階段を滑って踏み外し、左肩付近を強打、鎖骨を骨折した。

・ヒヤリハット。人的被害と物的被害なし

20023H 実験室の酸素濃度計が低酸素状態を検出し、隣接する居室で警報が発報した。安全を確認しつつ調査したところ、酸素濃度計の機械的な故障であることが判明した。

20025H 長期間停止していた装置へ液体窒素を供給する作業中、室内の酸素濃度が徐々に低下し、約15分後に酸素濃度が19%未満となり警報が鳴動した。直ちに作業を停止して全員退避し、遠隔モニターで酸素濃度が約20%まで上昇することを確認した。/容器内が常温になっていたことにより、液体窒素の気化量が通常より多かったためと考えられる。

20028H 液体窒素汲出し場にて、容器への液体窒素の汲みだしを開始したところ、液体窒素の噴射の勢いで延長管が容器から飛び出し容器外に噴出した。/延長管の上の管がいつもより柔らかいものに取り替えられていた。

20031H ピリジンを入れたポリプロピレン容器を加熱スターラーで攪拌しながら80℃程度まで加熱していたところ、熱されたピリジンでポリプロピレンが溶けて容器の底に穴が開き、ピリジンが気化して異臭(おそらくピリジン臭)が部屋の中に充満した。

・人的被害なし、設備災害でない機器・施設損傷あり

20022Nd 脱イオン水製造装置で採水中、担当者が会議で席を離れたうちに採水した水が容器から床にあふれ、階下に漏水した。(対策) 溢水した際にも適切に排水されるように容器の置き場所を検討する。